

金沢アートプロジェクト

学院大生の作品

金沢学院大生グループpeepが奨励賞を受けた「peep」=野村證券金沢支店



都心通りを彩る



湯谷幸さんが制作した「mirror forest」=明治安田生命金沢支店

金沢駅東広場から金沢21世紀美術館までの都心通り沿いのショーウィンドーに、学生が制作した芸術作品を展示する「金沢アートプロジェクト」が十月十二日始まり、金沢学院大学の学生が手がけた作品も七カ所に展示されています。十一月十一日まで。

来月11日まで

金沢学院大生の出品作と展示場所は次の通り。
 「peep」野村證券金沢支店 奨励賞
 「mirror forest」明治安田生命金沢支店 南町通り商工会長賞
 「翼」岡三証券金沢支店
 「MONOKURO」あおぞら銀行金沢支店
 「color」イオンクレジットサービス
 「eat in」中部支社
 「eat in town? マチ食い花?」日興コーデイアル証券金沢支店
 「紙コップと旅する金沢」北國銀行香林坊支店

地域密着を再認識

学院大 インターンシップ報告

金沢学院大学の就職講座で十月十二日と十九日に、インターンシップ報告会が行われ、来春からの本格的な就職活動開始を控えた学生が、各種事業所の様子や働く人たちの意識について参考になりました。
 十二日の報告会では、六人が演壇に立ち、北國新聞社、ラジオたかおか、若草福祉作業所、金沢市役所など、



などで夏休み中に臨んだ実習の内容を説明しました。発表した学生らは、働くことは時間との戦いであることと実感した。「地域との密着性を改めて認識した」、「従業員同士の意思の疎通はまず自分から声をかけなければならぬ」、「人の話を聞き、その立場になって考えることが大切」などの感想を話しました。

インターンシップの体験内容
 を報告する学生 〓 講演

能登の食材の見直しが大切

文化財学科公開講座

金沢学院大学美術文化学部文化財学科の公開講座「半島能登の風土と歴史」は十月十三日、七尾サンライフプラザで行われ、聴講者約六十人が古代から近世までの能登の食文化に理解を深めました。
 清水宣義教授が能登の神々の神饌(供物)、小嶋芳孝教授が塩作り、東四柳史明教授が戦国大名の献立と



味覚、見瀬和雄教授が素麺の生産と流通について、それぞれ解説しました。
 馬場先恵子准教授がコーディネーターとして加わった全体討論「写真右」では、穴水のまいもんまつりを例に、地元の山海の食材を見直す取り組みが大切」などの提言がありました。

大学野球は2位

北陸大学野球秋のリーグ戦は10月14日終了し、金沢学院大学は7勝3敗で2位でした。10月26日から名古屋で開かれる愛知・東海・北陸代表決定戦に、優勝した福井工大とともに出場し、明治神宮大会の出場権獲得を目指します。
 また、秋の北信越高校野球石川県大会に出場した金沢学院東高校は準々決勝で敗退しました。

飯田ゼミが作品展



飯田ゼミ展の作品 = 金沢市民芸術村

芸術村で作品展を開き、学習の成果を披露しました。
 三、四年のゼミ生計十四人が、紙粘土を使ってコマ撮影したクレイアニメーション、水の粒子の物理的性質を映像化したもの、風をセンサーに送ると画像の繊毛が動く映像など、個性的な作品を並べました。
 あす、あさって清鐘祭
 金沢学院大学・短期大学の学園祭「清鐘祭」は十月二十一日から二十一日行われます。二十一日午前十一時からメインステージで、忍たま乱太郎ショー、二十一日午後三時半から体育館で川嶋あいコンサートがあります。また進学相談会が両日とも午後一時から行われます。

発行・広報室